



今月の国際テーマ：**Rollback Malaria**

今年度クラブテーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」



埼玉 YMCA 50周年記念式
2023年 3月 21日
@ 浦和キリスト教会



3月21日埼玉YMCAは50周年を祝った。大宮で市民クリスマスを開催しようという話し合いが大宮YMCA結実し、さらに今日の埼玉YMCAに成長した。そこに至るまで多くの会員、リーダー、職員が苦楽を共にした。当日は設立メンバーや近隣YMCAの応援団、元総主事達も駆けつけて大いに賑わった。埼玉Yをこれからもしっかり応援したい。(衣笠・浅羽が出席)



記念式典・懇親会は埼玉YMCAとの繋がりが長い浦和キリスト教会で。

< 4月の聖句 >

「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに、脱出の道も備えていてくださいます。」

(コリント人への手紙第一 10章 13節)

4月「AIは愛？」例会



日時：4月24日(月)午後2時～4時
会場：き咲きてらす(浦和区木崎3-6-6)
卓話：佐藤優子氏(街の本屋さん kitten Blue 店主)

「-kitten Blue-私の考える第三の居場所としての通学路にある本屋さん」

- * 今月の歌「戦争を知らない子ども達」
- * 語らいのひと時
- * 諸報告・お知らせ
- * コロナ感染症対策は万全に！

埼玉 YMCA 50 周年に寄せて

50 周年ということでクラブメンバーに思い出など綴ってもらいました。

◆ 衣笠輝夫メン



今思い返しますと、神様の導きとしか言いようのない機会が与えられたことでした。

約 20 年ほど前のことですが、埼玉 YMCA の栗原総主事就任式が日本バプテスト浦和キリスト教会でありました。私はその時、埼玉 YMCA の会員でもなく、埼玉ワイズメンズクラブのメンバーでもありませんでした。学生時代は東京 YMCA のリーダーをしていましたが、社会人となってからは YMCA から離れていました。

日本バプテスト浦和キリスト教会では、奉仕として礼拝時等の音響を担当していました。埼玉 YMCA のイベントがあるということで、音響の段取りをしていたところ、昔東京 YMCA 中央ランチで、高校生メンバーだった私のリーダーであった筈川光郎さんが、教会に来られていて偶然にも 2 階でお会いしました。

そして栗原総主事に紹介されたのが運命の時でした。それが契機で埼玉ワイズメンズクラブにも入会した次第です。

* 写真は 2011 年 11 月 23 日の第 1 回埼玉 YMCA ホームカミングデー。現役・OBOG リーダーが集合。2 回開催されたが、以後開催されておらず。再開したい。



◆ 水無瀬隆三メン



浅学非才なる私が、埼玉 YMCA の監事として関わり強く感じました事は、四代の総主事（飯島、二子石、栗原、小谷各総主事）と苦労を共にしてきたことです。いずれの総主事の時代も多くは困難がありました。運営上一番の困難は、4 つのセンターが借家であること。そのために賃料を捻出しなければなりません。固有の資産を持つ事が長年の願いであります。人件費も課題でしょう。私企業的発想からすれば改善すべき点は多々あるでしょうが、収支相称の決算が求められます。

しかし埼玉 YMCA が五十周年を迎えられたのも、

困難の中で「愛の精神」を忘れる事なく総主事、職員、役職員が一体となって、歩んで来られたからだと思えます。その「愛」は「イエス・キリスト」より受ける「愛」を「困難であっても、実行されて来た」事であると思えます。「主が共に居て下さる」事を確信し「祈り」と共に前進されて行く歩みの中に、新しい、生き生きとした活動が開けていく事を願います。

◆ 浅羽俊一郎メン



私が埼玉 YMCA を初めて訪ねたのは UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）職員になってパキスタンのペシャワールに赴任中。一時帰国で浦和の両親宅に家族で居候していた夏だったと記憶している。事務所は北浦和駅東口の駅前ビルの 3 階。当時のスタッフは武井主事。

西口に引っ越したあと 1、2 回伺った。とうに忘れられた、と思っていた「ズンゴロ節」が振付け付きで歌われていることをその時知って驚いたことを覚えている。

UNHCR 退職後、栗原元総主事に勧められて国際奉仕委員会に入り、委員長の森田進氏と知り合った。ある会合の後、北浦和駅から氏と一緒に電車に乗り、新座駅で一緒に下車し、そのまま同じ道を一緒に歩く。何のことはない。二人は同じマンションの 2 階と 7 階の住民同士！神様が埼玉 YMCA を仲人に結んだ不思議な縁を思ったものだ。

◆ 上松寛茂メン



埼玉ワイズメンズクラブに入会したのは勤務先の定年直後の 2006 年頃だったような気がする。当時の埼玉クラブの会長だった故紺野彦司さんが勤務先の同じビルにある傍系会社の先輩で、小生の職場に来て机の上に 1 枚の紙を置き、これにサインしろと強引に詰め寄せられた。Y's の入会申込書だった。筆者が中学時代に同じ教会にいた紺野さんの後の会長になられた既に別の教会に転会されていた河村幹夫さんからも Y's 入会数年前から、近隣の教会同士の信徒が月に 1 回上尾市内の外食レストランで実施している朝食祈祷会で会うたびにしつこく入会を迫られていたことと、今は亡き妻が河村さんの紹介で YMCA 合唱団・オラトリオソサエティー合唱団と一緒に活動していたこともあって、お世話になった手前、断り切れず、定年を迎えることだしという思いもあった。河村さんから紺野さんルートで“罨”にはまってしまったという経緯だ。どうでもいいことを長々と微細にわたり詳述したが、埼玉 YMCA 50 周年の思い出はこうした「人」との中で導かれてきた帰結にあるということと言いたかったからだ。ほぼ同時期に入会された衣笠輝夫さんも似たような経緯のようだ。

「ジェンダー：男が捨てきれないもの」

浦野都光

* 以下は昨春の例会で卓話されたプロフェッショナル・チューターの浦野都光(くにみつ)氏にジェンダーを勉強していくつもりだと伝えたら寄稿して下さった一文。

好きな癖の一つに「厩火事」がある。お崎は腕の良い髪結いだが、悩みは年下の亭主のこと。毎日仕事もせずに酒ばかりくらっている。自分が年を取ったら愛想を尽かされるのでは、と思うと心配で、仲人に相談にくる。



仲人は、厩に火が入り名馬を死なせてしまった弟子たちの無事を気づかい、愛馬のことは問わなかった孔子の逸話、そしてもう一つ、奥方より瀬戸物を大事にするあまり家庭を壊した殿様のお崎に聞かせる。亭主の大事なものをわざと壊してみろ、亭主がお前の体の方を心配したらまだ脈はあるよ、と。

お崎がその通りにしたら、果たして亭主は女房の体の方を気づかった。「お前さん、そんなにあたしのことが心配かい」「当たり前だ、お前が指でも怪我してみろ、明日から遊んで酒が飲めねえ」

この癖を聞いて、なんとひどい亭主だ、女房は生活の道具ではない、と真顔で怒る無粋な方を余り見ない。実際お崎の亭主は関白どころか、むしろ女房を頼りになる一個の主体として認めているからなのだろう。

戦後フェミニズムが浸透し、60～70年代にはウーマン・リブのような女性の権利運動が高まった。その積極的な意義はもちろん評価するとして、ここには男の側が忘れていた一つの過ちがあった。それは男が相変わらず家長制度を捨てきれず、フェミニズムを「女性を大事にする」という大変奢った視点で捉えてきたことだった。

「ジェンダー・フリー」の言葉だけなら、中学受験の参考書にも登場する。一方でその解説に感じるのは、男が外に向けて展開する「上から目線」の態度だ。精神科医の斎藤環氏は述べる。「立場を捨てようとしないう男性の主体は、自分自身が変えられてしまうことをひどく嫌う。そういう主体には、本当の意味で対象と関係することができない。できるのは自分を変えずに対象を所有しようと試みることだけだ」。

愛すべきお崎の亭主のように、自分の非力を隠さず、女房へのリスペクトを忘れぬ「男」の姿を望みたい。ジェンダーを論じることは、男の側の自己変革に他ならない。❖

追記:

・「厩火事」に出てくる孔子の逸話は、『論語』郷党編十(13)より。厩焚。子退朝曰、「傷人乎。」

不問馬。(厩焚けたり。子朝より退きて曰く、人を傷はむか。馬を問わず。)

・斎藤氏の記述は『関係する女 所有する男』講談社現代新書(2008)より。

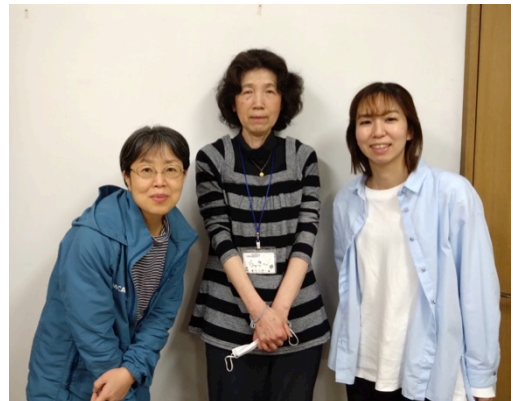
YMCAの小窓から

* 浦和YMCAの活動を支えよう!

新年度を迎えました浦和センターは、新しいスタッフ体制での運営となります。水上 真帆(みずかみ まほ/マッピーリーダー)さん、坂室 由美子(さかむろ ゆみこ/くまこリーダー)さん、佐々木仁子さん(ささき ひろこ/ねこリーダー)さん、川越センターとの兼務で週1回木曜日に長谷川 洋輔(はせがわ ようすけ/マックスリーダー)さんの4名の常勤職員を軸に、14名の非常勤職員の皆さんとの体制で、放課後等デイサービスや英会話やアート、野外活動など、来館するメンバーの皆さんと様々な体験を通して共に成長する(=良くなっていく)1年を過ごします。

夕方の時間帯は子ども達のクラスでバタバタしておりますが、埼玉ワイズの皆さんが浦和センターへお越し下さることを、いつも楽しみにお待ちしております。(小谷全人総主事)❖

※ 左から、坂室さん、白勢さん(非常勤)、水上さん



◆ 諸報告

3月「ジェンダー」例会メモ

今年に入ってジェンダーを中期的に学びたいという会長の提案で2月例会ではテキスト「ジェンダーについて大学生が真剣に考えた」を配布し、メンバー間で話し合った。そして3月27日の例会は「ジェンダーと特権」と題して鈴木洋一氏*を講師に学びと話し合いのワークショップを開催した。

まず鈴木氏が話し合いの進め方、参加者間のリスペクト、それぞれの意見を軽く扱わないなどルールを確認。それから皆でジェンダー、人権、差別などの基礎概念をおさらいし、日本の会社などでありうる事例をもとに参加者が話し合った。さり気ないひと言が相手を傷つけることを確認した。「マイクロ・アグレッション」などの表現も覚えた。鈴木氏は軽妙な口調で語り、

スライドや失敗談などで参加者を話に巻き込むとともに、皆が話に加わっているか常に気を配りながら丁寧に進めてくれた。道理で若者たちに受けるわけだ。



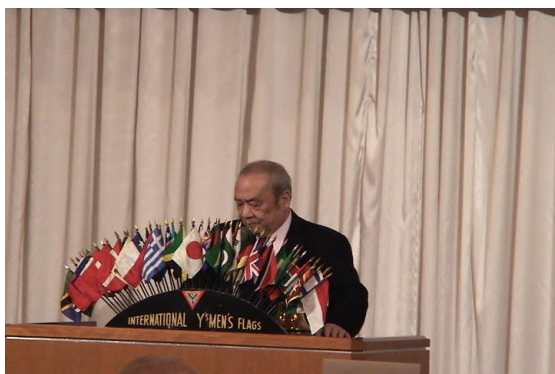
(ゲスト) 鈴木洋一、吉野 理、松谷修二、金子玲子、浅羽 恵 (メン) 上松、衣笠、小谷、水無瀬、浅羽 (敬称略) (浅羽 記) ❖

* 鈴木洋一氏は日本各地で若者に社会参加を働きかけている。Ysワイズの・YMCAとはオープンフォーラムYや日本YMCA大会の基調講演などで繋がっている。

* 例会では小谷総主事から当クラブのYMCA奉仕に対して感謝状を頂戴した。

Men's FOTO Gallery

- * 埼玉クラブの元メンバー 小峰理孝氏の懐かしい写真2枚を衣笠メンが提供してくれた。
- 上) 埼玉ワイズ 30周年記念会 2007年3月29日 浦和東部ホテル。
- 下) 埼玉ワイズ定例会 2008年2月25日 小峰ビル1F。



◆ 4月夜談会 (10日予定)

出席者が少なかったため急遽中止と決めた直後、甲府21クラブの山本俊一メン(松戸在住)が参加したかったと連絡してきたので、会長提案で二人で北朝霞の沖縄系居酒屋で会う。以前挨拶を交わし、メールやズームでやり取りしていたが、直に話すのは初めて。午後6時半から話し出して、別れたのは4時間後。実によく話した。楽しかった。(浅羽 記)



◆ 塀和光二郎メン 今月の俳句 (俳号 愚道)

- ① 4月バカ嘘つく相手誰もなし
昔は4月バカでいろいろ考えて冗談いていたのに
今では笑い合える相手がいないナ～
- ② 菜の花や畑の端を和ませて
どこの畑でも何故か畑の端に菜の花が咲いています。
取り損なった野菜の菜の花かな?
- ③ 迷い猫春の温さを満喫し
人生に迷いつつある猫(私)でもこの春の温さに満足してます。

お知らせ

5月20日(土) オープンフォーラムY
10:00~17:00 リアルとズームで参加可

集まろう、聴こう、そして伝えよう!

オープンフォーラムY

スローガン「みつかる、つながる、よくなっていく。」

「オープンフォーラムY」は、地域の課題について、関心のある方々が集まり、意見交換や情報共有の場を提供する。参加費無料、誰でも参加可能。お気軽に参加してください。

日時: 2023年 5月20日(土) 10:00~17:00

場所: 日本YMCA同盟会館(西谷)

開催方法: リアル+Zoom オンライン

対象: 一般社会人、学生、フリーランス、主婦、会社員、学生、フリーランス、主婦、会社員、学生、フリーランス、主婦、会社員

参加費: 無料

お申し込みは、お申し込みフォームからお願いいたします。

お問い合わせ・申し込み先: 一般社団法人 埼玉ワイズYMCA 事務局
〒330-0801 埼玉県浦和市大宮2-1-1 1F
Eメール: tkinubus@gmail.com

主催: 一般社団法人 埼玉ワイズYMCA 事務局

共催: 一般社団法人 埼玉ワイズYMCA 事務局

https://us06web.zoom.us/j/89320602853?pwd=MTA1LjY1LjBncFk4bGh6eGZBUXk2ZkZkdz09

ミーティング ID: 893 2060 2853

パスコード: 937211

- 5月22日(月) クラブ定例会 話し合い
協議: プログラム・信条・会場・例会日・会計他
- 6月3・4日(土/日) 第6回東日本区大会
「かふふ・く」大会 @ APIO 甲府
- 11月3~5日 第30回アジア地域大会 @ 香港

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
月例会 (3/27)	9	5	4
夜談会 (4/10)		中止	